

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための 制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための 体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと 支援	2
1. 相談から利用に至るまでの 関係づくりとその 対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの 関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを 続けるための ケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの 把握	1
2. 本人がより良く暮らし 続けるための 介護計画の作成、見直し	2
3. 多機能性を活かした 柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし 続けるための 地域資源との 協働	2
その人らしい暮らしを 続けるための 日々の支援	11
1. その人らしい 暮らしの 支援	9
2. その人らしい 暮らしを 支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21 年 6 月 23 日
調査実施の時間	開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 愛の郷 水呑 (広島県)
評価調査員の氏名	氏名 高橋 章 氏名 土谷 静子
事業所側対応者	職名 ホーム長 ・副ホーム長 氏名 山手 由紀 ・岡本 晴美 ヒアリングを行った 職員数 (2) 人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にして下さい。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に「 」をつけます。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で「 」をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471503072
法人名	特定非営利活動法人 エルダーサポート協会
事業所名	グループホーム 愛の郷 水呑
所在地	福山市水呑町 4571 084 - 920
評価機関名	特定非営利活動法人 あしと
所在地	福山市三吉町南一丁目 11 - 31 - 201
訪問調査日	平成 21 年 6 月 23 日

【情報提供票より】 21 年 5 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 19 人
職員数	13 人 常勤 12 人 非常勤 1 人 常勤換算 12,4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/ 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1 日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(5 月 31 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85, 1 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井病院(内科)・小林医院(内科)・かわもとクリニック(リハビリ科/整形)
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成21年7月10日

職員と利用者は菜園で一緒に作った野菜を、昼に調理して食べる...笑顔と笑い声が絶えず、家族としての暮らしが充実している。利用者は好きな事をして暮らし、散歩...等で体力作りをして、仲間と和気藹々と日々過ごしている。職員は自分の親だったらの思いで、「いつまでも元気で長生きを！」と介護をしている。97歳の利用者は七夕の願いの短冊に「長生きしたい！」と書いている。職員は利用者や家族とのコミュニケーションを取り、家族はみんなの手作りおやつを作ったりして、気軽にもてる。家族も本人も安心し、信頼している。職員の勤務歴も長く、職員同士の仲も良く、チームワーク抜群で、地域との交流も活発である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果はミーティングで取り上げ、管理者・職員は改善に向けて話し合いを行ない、サービスの質の確保・向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を職員が理解するように、全職員が自己評価に取り組んだ。職員は記入していく中で気づきが多々あり、管理者と職員が個人面談をして、意識合わせに取り組み、今回の自己評価につながった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の参加メンバーに事業所からの報告をして、理解を得ている。町内会とよい関係が築かれているので、災害時にスムーズな協力を得られるように、この会議をよりよく活用される事が望まれる。基本的に2~3ヶ月に1回は開催し、幅広い立場の人が参加する場として、質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるような働きかけをすることが期待される。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会時や行事を含めた年4回の家族会では、職員から積極的に声かけをして率直な意見を聴いている。家族からは本人に関して、ああして欲しい、こうして欲しいと、具体的な意見が言える信頼関係が出来ている。その都度、ミーティング等で話し合い、検討し、反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に入会して、町内会の行事(清掃・バレーボール・グランドゴルフ・盆踊り・文化祭)等の地域活動には積極的に参加し、地域住民との交流に取り組んでいる。災害時に近隣の方々が協力して下さるようなシステム作りが期待される。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族と地域との交流の輪を作っていくことを目指して、事業所独自の理念『信頼と希望』を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は朝の申し送り時に理念を唱和している。職員全員で作った理念を合言葉にして、気づきがあれば、『トラスト』・『ホープ』と言葉を掛け合い、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会して、町内の行事（清掃・バレーボール・グランドゴルフ・盆踊り・文化祭）等の地域活動には積極的に参加し、地域住民との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解するように、自己評価票を全員に配布した。職員は記入する中で気づきがあり、管理者は職員の意見を評価に取り入れた。評価結果はミーティングで取りあげ、改善に向けて話し合っている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加メンバーに事業所からの報告をして、理解を得ている。		4月に管理者の交替があり、運営推進会議が最近、開催されていない。基本的に2～3ヶ月に1回は開催されることが望まれる。幅広い立場の人が参加する場として質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう、働きかける事が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が企画する研修会には参加している。		行政からのアプローチを待つだけでなく、事業所側からも積極的に、介護保険課等に働きかけて行くことが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の家族の面会時や行事を含めた年4回の家族会・毎月発送の『愛の郷通信』で積極的に報告している。個々の利用者の急な体調不良などは電話で必ず連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で、職員等から積極的に声かけをして、意見を聴いている。本人から出された意見。要望は、その都度ミーティング等で話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを最小限に止めるように配慮をして、離職する本人から、利用者へ辞める理由をちゃんと話してもらっている。また、辞めても遊びに来てくれる関係も出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での採用時研修・採用後OJT・継続研修年三回を職員の資質向上のために整備している。外部研修情報はチラシで、全職員に案内している。参加したい人は申し出て、勤務を調整してもらい、参加する。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に行ったときに知り合った、近辺の複数の事業所と、職員同士の意見交換を兼ね、利用者を含めて、交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を必ず見学してもらう。部屋の空きがあれば、体験入所も出来る。1～2日は食事を利用者と共にしてもらう。管理者と職員二人で家に伺い、話を聞かせてもらう機会を何度も作り、顔馴染みの関係になるよう、工夫している。		
亜					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理作り、洗濯物の畳み方、花や野菜の育て方、裁縫、昔話など、利用者の方から教えてもらっている。「どうしましょうか」と声かけをして、お互いに出来ないことを支えあう関係を作っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が何気ない日常生活の会話の中から聴き取り、申し送り帳に記帳して、全職員が想いを共有する。また、入居後、本人や家族からこれまでの生活歴等を聴いて、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意見を充分に取り入れ、担当職員の意見・その他の職員の気づきを入れて、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画の見直しを3～6ヶ月をめぐりに、本人・家族の要望や変化に応じて、継続か終了かの検討を行なっている。職員は日々の介護記録・申し送り帳を共有して、新たな介護計画に活かしている。利用者の急な変化に際しては、即、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の利用者のかかりつけ医への受診支援・墓参り支援・落ちつかない時の個別支援...等の柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて、かかりつけ医は決めている。かかりつけ医の受診に家族が同行出来ない場合は事業所の職員が代行支援している。協力医院からは希望者のみ、週一回往診がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に付随して、『看取りに関する指針』としてA4用紙4枚に記載している。利用者や家族の声を早めに聞いて...重度化した場合・家族の延命治療に対する意向の把握等...職員間で共有していく必要は感じている。過去に事例はないが、看取りの手順等は職員で話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内部でプライバシーの研修を年1回している。記録等の個人情報は徹底管理している。利用者へは他の人の前であからさまに介護をしたり、誘導の声かけをして、本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが本来持っているペースや、望んでいるペースにそって、見守りながら、柔軟な暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業を利用者と共に職員が行い、同じテーブルを囲んで、一緒に食事を味わいながら、会話を楽しんでいる。家族の団欒の場のように、和気あいあいとしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二時半からの入浴時間で、曜日は利用者の希望で決める。毎日の利用者も居られるが、拒む人に対しては、二日に一度は入浴できるように、言葉かけや対応の工夫、個々に合わせた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮できるように支援している。料理、洗濯物、散歩、花の水遣り、新聞取り、買い物...等々、各ユニットの一員・家族として、本人のリズムを崩さないように、職員が本人の得意分野に手を出さないように、支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は気分転換やストレスの発散、五感刺激を得られる絶好のチャンスであるから、買い物・散歩・理美容院・受診・帰宅等、必要に応じて支援している。初詣・お花見・演劇鑑賞・ドライブは月1回程度、出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しているので、見守りでも対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を日中・夜間を想定して、いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るように、年2回行なっている。また、地域の集団防災訓練に入居者と共に参加している。		職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人々の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行ない、一緒に訓練を行なうなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を記録して、個々に合わせた対応をしている。水分摂取量は一人、1日1500ccを目標にしているが、とれない利用者はコーヒーとかアイスとかで、少しでも水分がとれるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごす共用空間は、家庭的な雰囲気を大事にして、安らぎ居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、使い慣れた家具や装飾品、仏壇等も持って来て、その人らしく、落ち着いて過ごせるように工夫されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 愛の郷 水呑(ユニットA)

評価年月日 2009年 6月 23日

記入年月日 2009年 5月 31日

記入者 管理者 氏名 岡本 晴美

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各ユニットごとに独自の理念をスタッフ全員で作っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について考える事が自然に行える様に、合い言葉をつくり実践につなげている。【HOPE】		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・運営推進会議及び地域の行事に参加することにより、理解が得られるようになってきている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中の人に声を掛けてみたり、掛けてもらったり、近所の子供が遊びに来たりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事・地域の掃除・親睦会に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会より介護者教室等の開催に対し協力要請がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、自己評価を年一回おこなって、それをもとに、個人面談や、職員全員で振り返り、具体的な改善点をみつけ、改善に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場だけではなく、町内会に入り、色々な行事に参加し、親睦を図り、認知症に対する理解を深めてもらっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今は受け入れ体制が整っておらず出来ていないが、今後、研修等受け、受け入れ体制を整えていきたい。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の関係者との話し合いを持ち、支援を行っている。必要に応じて、包括支援センターや家族との話し合いの場を設けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、勉強する機会をつくり、常に薬・暴力・言葉・精神的な虐待について、検討し考えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には重要事項等にて説明を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常に声かけ等を工夫して、意見等が引き出せるようにしている。申し送りやカンファレンス等で検討している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	体調不良などは、必ず電話連絡を行っている。普段の暮らしぶりなどは面会時や、家族会などで話している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書に記載し、玄関の掲示板へも掲示している。玄関には意見箱を設置している。その他、面会時や家族会などでも意見を出して頂き、運営に反映させている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月一回の定例会議・連絡会議・年二回の面談を行い、意見や提案があればその場で話し合いをし、反映させている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	柔軟な対応を行うための、勤務の調整を行っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動や離職を最小限に抑え、ダメージを防ぐ配慮を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、スタッフのチームワークについての勉強会を計画的に行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の老人保健施設での研修に参加している。また、グループホーム同士の交流を図って参考にしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月一回の定例会議・連絡会議・年二回の面談・年二回の慰労会を行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年二回の面談時、個々の目標を定め向上心を持って働けるよう話をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった後、必ず事前にお会いし確認している。利用まで日数がかかった際は、直前に再度確認をさせて頂いている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学して頂き、納得されるまで、何回でも話し合いの機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の話聞き、リハビリや医療、その他のサービスが利用出来るように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験等、本人のペースに合わせてながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方、味付け、花や野菜の育て方を教えてもらったり、本人が何を求めているかを、会話の中から探りながら、一緒に悩んだりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などの時に、お誘いし共に喜怒哀楽を感じていただいている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や行事に参加された際、本人の状態報告をなるべくし、本人とご家族の時間を多く取る。又お泊りして頂いた事もある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや、年賀状等などの季節のお便りを出す援助を行ったり、電話での援助を定期的に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲームやレクリエーション・役割を通し、持っている能力に光を当て、利用者間の距離を縮めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	過去に事例がないので評価出来ない。		今後このような要望があれば応えていきたい。
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話等で把握し、職員間で共有し対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり、今までの生活環境に出来るだけ沿うように、入居時に本人・ご家族に生活歴を聞き、入居後も検討している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りにて、入居者全員の状態を把握し、一日の過ごし方を考え援助をしている。著しく状態変化が見られた際は、関係者等の助言に基づき対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族とはよく話し合いをし、介護計画の長期目標やご家族の要望の欄へ反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、ご家族に確認しミニカンファレンスを開き、現状に沿った対応が出来るようにしている。その後、介護計画の見直し時に評価し、継続か終了かを関係者と一緒に検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護を記録し変化があれば申し送り等にて共有し介護計画の作成に生かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との外出や一時帰宅などを実施している。又、面会時間の時間制限はない。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて関係団体と協力し、支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況、立場に応じて関係者（入居時前のケアマネ、相談員）等と話し合いを持っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他施設のケアマネ、包括、介護保険課、介護予防課等、本人に必要であれば話し合い持っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、当施設の提携医か今までのかかりつけ医かを聞き、本人の意思に完全に沿った支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の先生や協力病院の先生に協力を得て、相談しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設看護師と提携医の看護師と相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には家族の意向を医師にお伝えし、随時連絡をとります。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・医師とホームスタッフでのカンファレンスを何度も行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	面会時や、家族会などで話をしている。状態に応じて家族の意向を聞きながら、出来る援助を出来るよう、支援を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報書を活用し、事前に話し合いや面接を行い、又入居後も関係者と密に連絡が取れるような体制をとり、ダメージを最小限にするよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声かけに対し、配慮がなされていない場面もあるが、スタッフ同志で指摘している。</p>	<p>声掛けについては、各個人ごと、おかれている状態によって違うので、スタッフ全員でもっと勉強して行きたい。</p>
51	<p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自己決定、自己選択を出来る場面を演出する様に援助している。</p>	<p>自己決定、自己選択の場面をもっと作りその人らしく生活していけるよう勉強していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「どうしましょう?」と声を掛け、入居者の皆様の意思表示をして頂く様にしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者の皆様は美容院などそれぞれ 馴染みのお店に行っています。出掛けられない時は施設に来て頂きます。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何が食べたいかの話から、野菜を畑に取りに行き、切ったり、皮をむいたり、炒めたり、能力に応じて一緒にしています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族、医療との連携を取り、本人の希望に出来るだけ沿った対応をしている。お酒、食べ物、飲み物等。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>声掛けしてトイレ誘導、ポータブル誘導を行っている。オムツ対応の人もポータブルトイレを使用し、オムツへの排泄を減らす努力をしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日を定める事無く、本人の希望を聞いている。入浴拒否時も声かけの工夫やタイミングを見るようにしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>少し人目が付きにくい廊下の奥にソファを置き、休憩の場として活用されている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>読書ル - ム、少人数での談話室などがあり、いつでも利用可。編み物や折り紙、菜園があり園芸も出来る。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、ご家族の希望に応じて、お金を持って頂いている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物・散歩・受診・理美容・帰宅など必要に応じて援助している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>年に一回程度、初詣、お花見、演劇鑑賞等、利用者の要望に対応し、ご家族の理解を得て一緒に出掛けている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけて頂いている。手紙は代筆をしたりして、季節ごとに援助を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人がよく来られています。来られた時には、居室で気兼ねなく過ごして頂くように声かけをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを参照にして、スタッフ全員が理解し取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない、何時でも開放している。出ようとされた場合は見守りを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	拒否や拒絶が有る方は、気にならない場所での所在確認を徹底して行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に合わせて鋏や包丁等は一緒に使用し危険を防ぐ取り組みを行っている。薬や刃物、洗剤など不測の事態にそなえて目の届かない所に置き管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひとり一人の状態に合わせ、事故を防ぐようケアカンファレンスを行い、状態に合わせた対応を行っている。見守り・声かけの徹底。		不十分な事もある為、スタッフ全員で勉強していききたい。事故防止連絡委員会を意義あるものにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的にとはいかないがミーティング時に応急手当や初期対応の訓練を行っている。転倒の時に初期対応が発揮でき、迅速な行動が取れた。		定期的におこなっていききたい。スタッフ全員が出来るよう訓練していききたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の行事や掃除などで顔見知りの地域住民に町内会を通し、協力が得られるよう働きかけている。また、地域の集団防災訓練に入居者と参加しています。		今後も働きかけを継続していききたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	信頼関係を築きながらトラブルにならないように、説明をおこなっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	目配り、気配りをしっかり行い、異常時には情報を共有し状態によっては主治医に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人の薬の目的や用途、用法や用量を分かりやすく記載しているリストを作成している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便を記録し、繊維の多い食べ物や飲み物、適度な体操を取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの援助を個々に合わせて行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を記録し、個々に合わせて対応しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いの励行・消毒や掃除をこまめに行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の使用と管理を行い、食中毒の予防を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は日中開放し、花を植えたりし、普通の家庭のような玄関周りになっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や空間を大事にしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者がスタッフの目を気にせず談笑できる空間の確保ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら、使い慣れた家具や装飾品・仏壇などを持ってきて頂き、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開けて換気を行っています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを随所に取り付け、段差をなくし車椅子でも生活が継続できるようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはトイレと明記し、居室には表札を平仮名で掛けて混乱の無い様に工夫しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花を植え、水やりを役割としたり、ツバメが毎年来るのを楽しみにしたりしています。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3 ぐらいの	
		利用者の1/3 ぐらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりの ペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3 ぐらいが	
		利用者の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで 生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3 ぐらいが	
		利用者の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3 ぐらいが	
		利用者の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3 ぐらいが	
		利用者の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3 ぐらいが	
		利用者の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく 聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3 ぐらいと	
		家族の1/3 ぐらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホーム に馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが 広がったり 深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ 増えている	
		あまり 増えていない	
		全くない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3 ぐらいが	
		職員の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービス におおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3 ぐらいが	
		利用者の1/3 ぐらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3 ぐらいが	
		家族等の1/3 ぐらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として 力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは今年目標も、『いつまでも元気で長生きを』と定め、体力作りと美味しい食事に力を入れています。お日様の出ている日は必ず散歩に出掛け、季節折々の景色を楽しみながら体力作りを行っています。また自分の体力にも興味を持っていただこうと、月1回体力測定を行い、表に記録する事で「もっと頑張ろう」「今回も出来た」意欲と充実感を持っていただける様に頑張っています。食事については、菜園があり、入居者様とスタッフが力を合わせ、野菜や花を育てています。散歩の途中で立ち寄り収穫し、季節の美味しい野菜を使った調理を手がけています。畑を耕し、苗を植え、水をまき、肥料をやり、草取りをし、虫から守り、人生の先輩である入居者様に聞きながら、出来た野菜は格別です。食卓では野菜作りの経過を話題にし、入居者様とスタッフが同じ釜の飯を食べ楽しく美味しい食事の時間となっています。又、スタッフ全員で作った理念を大切に合言葉を忘れず、スタッフ同士で声を掛け合いながら、入居者様のその人らしい生活、希望を叶えよう『HOPE』信頼関係を作ろう『TRUST』でチームワークを作りながら頑張っています。そして笑顔と笑い声の絶えないホームであり続けたいと思います。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 愛の郷 水呑(ユニットB)

評価年月日 2009年 6月 23日

記入年月日 2009年 5月 31日

記入者 管理者 氏名 山手 由紀

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【TRUST】(信頼)と言う、合言葉を職員全員で考えました。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	【TRUST】を合言葉に、「優しい声掛け」「尊厳」を考え取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・地域運営促進会議を定期的開催し、地域の行事に参加し、訴えている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中の人に声を掛けたり、掛けて頂いたり、菜園に立ち寄られる人も増え野菜の育て方など話したり、野菜をあげたり、頂いたりしている。近所の子供も遊びにきている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り色々な行事に参加している。(盆踊り、グランドゴルフ、文化祭)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会より介護者教室等の開催に対し協力要請がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、自己評価を年1回行って、それをもとに個人面談(予定)や職員全員で振り返り、具体的な改善点を見つけ、改善に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告し理解もして頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今は受け入れ体制が整っていないため受け入れていないが、今後、研修などに進んで参加し受け入れ体制を整えていきたい。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	色々な方面に力になって頂いている。地域包括、家族、市等必要に応じて話し合いの場を設けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に色々(薬、暴力、言葉、精神的)な虐待について、検討し考えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 . 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項等について説明を行っている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常に声かけ等に工夫をして、意見が引き出せるようにしている。申し送りや、カンファレンス等で検討している。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	体調不良時などには必ず電話連絡を行っている。普段の生活は面会時や家族会、広報誌などでお伝えしている。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	重要事項説明書に記載し、玄関の掲示板へも掲示している。意見箱も玄関に設置し、ご家族からも直接言って頂けるように、コミュニケーションを取って意見などを運営に反映させている。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	定例会議や、1対1での話し合いの場を設け、意見や提案があればその場で話し合いをし反映させている。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の状態に合わせた業務の流れを、その日の職員で話し合い決めており柔軟な対応を行うための勤務の調整を行っている。	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	受けるダメージを最小限に防ぐ配慮を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や他施設との交流会を設けたり、外部研修の情報など提供し研修を受ける機会を作っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との利用者を含めた交流会を行い、研修へも積極的に参加している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回の定例会議・年2回の慰労会を行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の定めた向上心を持って働けるよう話しをしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった後は必ず事前にお会いし確認している。利用まで日数が掛かった際は、直前に再度確認をさせていただいている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	納得されるまで、何回も話し合いの機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリや医療、その他のサービスが利用できるよう勤めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方、味付け、花や野菜の育て方、裁縫や昔ながらの知恵など教えてもらったり一緒に悩んで、一緒に問題を解決したりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などにお誘いし共に喜怒哀楽を感じていただいている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や行事などに参加された際、本人の状態報告をし、なるべく本人とご家族の時間を多く取る。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状の援助を行ったり、電話での援助を定期的に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ゲームやレク・役割を通じ、持っている能力を引き出し、光を当て利用者感の距離感を縮めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	要望があれば、応えていきたい。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常の会話等で把握し、職員間で共有し対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり、今までの生活環境に出来るだけ沿うように、入居時に本人やご家族に聞き、入居後も検討している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りにて、入居者全員の状態を把握し、1日の過ごし方を考え援助を行っている。著しく状態の変化が見られた際は、関係者等の助言に基づき対応している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族とは、よく話し合いをし介護計画の長期目標、ご家族の要望の欄へ反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、ご家族とは、よく話し合いをし介護計画の長期目標、ご家族の要望の欄へ反映させている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、ご家族にも相談しながら何かあればその都度ミニカンファレンスを開き現状に沿った対応が出来るようにしている。その後介護計画の見直し時に評価し、継続か終了かを関係者と一緒に検討している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊、泊まりに来て頂く事もできます。面会時間の制限もありません。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて関係団体と協力し支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況、立場に応じて関係者（入居時前のケアマネ、相談員）等と話し合いを持っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他施設のケアマネ、包括、介護保険課、介護予防課等、本人に必要であれば話し合いを持っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にどうするか（当施設の提携医かそのまま継続か）を聞き、本人の意思に完全に沿った支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の先生や協力病院の先生に協力を得、相談しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設看護職員と提携医の看護師と相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には家族の意向を医師にお伝えし随時連絡を取ります。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・医師とホームスタッフでのカンファレンスを何度も行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医を中心として家族とも話し合いをして、出来ることの支援を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報書を活用し、事前に話し合いや面接を行い本人の今までの生活の把握に努め、また入居後も関係者と密に連絡が取れるような体制を取り、ダメージを最小限にするように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や個人情報の取り扱いは概ね出来ているが、声かけに対しは、もう少し工夫が足りていない。	声かけについては、ひとり一人、おかれている状態や性格なども違うので、職員全員でもっと勉強していきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己選択、自己決定の場を出来るだけ演出できるように援助を行っている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力「 しまししょう」ではなく「どうしまししょう？」と声を掛け、入居者の皆様に先ずは決めて頂いている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の皆様、美容院などはそれぞれ馴染みもお店に行かれています。出られない時は、施設へ来て頂いています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか好みや希望を聞いたり、野菜を焨に取りに行き、切ったり、皮をむいたり、炒めたり、盛り付けをしたり、後片付けをしたり、能力に応じて一緒に行っています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族、医療と連携を取り、本人の希望に出来るだけ沿った対応をしている。お酒、食べ物、飲み物等。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄は時間ごとに記録し、排泄間隔の把握に努め、また、記録時間だけでなく表情や落ち着きがなくなるなど、状態の変化などにも気を配っている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日を定めることなく、本人の希望をきいているが、時間帯にあまり幅がない。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>廊下の奥に(少し目がつきにくい所)へソファを置き、休憩の場として活用されている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>読書ルーム、少人数での談話室などあり、いつでも利用可。菜園があり園芸も出来ている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人やご家族の希望・能力に応じて、お金を持って頂いている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>帰宅、買い物、散歩、理美容、受診など必要に応じて援助している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>月に1回程度、初詣、お花見、演劇鑑賞、ドライブ等、利用者の要望に対応し、ご家族の理解を得て一緒に出掛けている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けて頂いている。手紙も代筆をしたりして、季節ごとの援助を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人がよく来られています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロへの手引きを参照し、スタッフ全員が理解し取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけず、屋外へ出ようとされた場合は見守りを行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	拒否や拒絶がある方は、気にならない場所での見守りを行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に合わせてハサミや包丁などは一緒に使用し危険を防ぐ取り組みを行っている。薬や刃物、洗剤など不測の事態に備えて目の届かない所へ置き管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせ、事故を防ぐようケアカンファレンスを行い、状態に合わせた対応を行っている。		不十分な事もある為、スタッフ全員で勉強していきたい。事故防止連絡委員会を定期的に行い意義あるものにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的とはいかないがミーティング時に勉強会と訓練を行っている。外部研修などで勉強した職員もいる。意識不明で倒れた時や転倒の際、訓練事項が発揮でき、迅速な行動が取れた職員もいる。		定期的に行っていき、職員全員が迅速な対応が出来るように訓練していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の行事や掃除などで顔見知りの地域住民に町内会を通して、協力が得られるよう働きかけている。また、地域の集団火災訓練に入居者と参加しています。		今後も働きかけを継続していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	信頼関係を築きながらトラブルにならないように、その都度説明を行い了解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	観察をしっかり行い、異変時には情報を共有し状態によっては主治医に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的や用途、用法を分かりやすく記載しているリストを作成し活用している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便を記録し、繊維の多い食べ物や飲み物、適度な体操を取り入れている。1日の水分摂取量の把握にも努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの援助を個々に合わせて行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を記録し、個々に合わせた対応を行っています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いの励行・消毒や掃除をこまめに行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の管理を行い、また、調理器具の洗浄乾燥を行い食中毒の予防を行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は日中開放し、花を植えたり、普通の家庭のような玄関周りになっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や光を大事にしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者がスタッフの目を気にせず談笑できる空間の確保が出来ています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談しながら、使い慣れた家具や装飾品・仏壇などを持って来て頂き、落ち着いて過ごせる工夫をしています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に窓を開けて換気を行い、温度調節も利用者に確認しながらこまめに変えている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを随所に取り付け、車椅子でも生活が継続できるよう段差をなくしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはトイレと明記し、居室には平仮名の表札をかけて混乱のないように工夫しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜を植え、水やりを役割としたり、ツバメが毎年来るのを楽しみにしたりしています。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは今年の目標も『いつまでも元気で長生きを』と定め、体力作りと美味しい食事に力を入れています。お日様の出ている日は必ず散歩に出掛け、季節折々の景色を楽しみながら体力作りを行っています。また、自分の体力にも興味を持っていただこうと、月1回体力測定を行い表に記録する事で『もっと頑張ろう』『今回も出来た』意欲と充実感を持っていただけるように頑張っています。食事については菜園があり、入居者様とスタッフが力を合わせ野菜や花を育てています。散歩の途中で立ち寄り収穫し、採れたての季節の野菜を使った献立を手がけています。畑を耕し、苗を植え、水をまき、肥料をやり、草を取り、虫から守り、人生の先輩である入居者様に聞きながらできた野菜は格別です。食卓では野菜作りの経過を話題にし入居者様とスタッフが同じ釜の飯を食べ楽しく美味しい食事の時間となっています。また、スタッフ全員で作った理念を大切に、スタッフ同士で声を掛けたり、話し合いながら、入居者様のその人らしい生活。希望を叶えよう『HOPE』信頼関係を築こう『TRUST』でチームワークを作り頑張っています。そして笑顔と笑い声の絶えないホームであり続けたいと思います。